



- 2. 会長挨拶
- 3. 静岡県健康福祉部こども若者政策部長挨拶
- 4. 保育士養成施設との意見交換会
- 6. 民間園長研修会
- 8. 育児相談研修会
- 9. 施設長研修
- 10. 海外交流研修会
- 12. 日本保育協会支部合同研修会
- 13. 青年部会活動報告記
- 14. ぶらんこ
- 17. 保育園・こども園の社会貢献活動
- 20. 委員会報告
- 22. 支部だより



会長挨拶



静岡県保育連合会会長

岡田 泰稔

『令和の米騒動』に代表される物価高騰の波は未だに終わりを見せず、我々の生活や園の経営にも暗い影を落とし続けています。光熱費も上がり続け、各々の経営努力や政府の対策だけでは追いつけない状況にまで迫っています。そのような厳しい社会情勢の中であっても、自然災害は待ってくれません。昨年も全国で大きな地震や洪水被害がみられ、未だに日常から大きく引き離された生活を送っている方々がいまいます。私たちも、預かる生命に対して最大限の備えが求められています。

令和七年六月に開催された静岡県保育連合会総会の後、会長職をお預かりしてからは、会員の皆様にご理解とご協力を賜り、何とか大きな行事も計画どおりに進めさせて頂きました。一月に開催された『静岡県保育研究大会』では、令和八年度の全国大会（石川県大会）、関東ブロック大会（千葉市大会）にあ

わせ、研究テーマを六分科会に絞っての開催となりました。「テーマが分かりにくくなった」等のご意見も頂きましたが、皆様のご協力のもと大変良い大会となりましたこと御礼申し上げます。上部三団体も大会や研修会のあり方を模索しているようですが、静岡県保育連合会と致しまして『学びの提供』『制度政策についての情報提供』について、常に検討を重ねてまいりたいと思います。

令和八年度からいよいよ『子ども誰でも通園制度（特定乳児等通園支援事業）』が全国の市区町村で始まります。政府の目指す『保育政策の新たな方向性』三つの柱のひとつ『全てのこどもの育ちと子育て家庭の支援』として位置付けられるものなのでしょうが、令和の時代にあつて、育児が孤独に陥らないため、我々保育施設が協力できる事があるのかもしれないと。もとより、出産↓子育て↓成長↓成人の過程で、必ずしも『保育』に関わらなかつた方たちが、希望すれば誰でも受けられる給付という形がとられ、これから生まれてくる全てのこども達と関わらせて頂ける好機として捉え、全てのこども達に質の高い保育を提供できる制度として前向きに参画していけたらと思います。

社会的にも『保育・教育』の重要性、必要性が認められつつある中で、行政ともますます協力し、社会全体に向けて発信する方法を模索していきたいと思えます。

表彰者

おめでとうございます

◆全国保育協議会

会長表彰

浜松市 三方ときめきこども園

園長 竹下 敬子 氏

富士市 富士市立岩本保育園

園長 佐野 雅恵 氏

熱海市 多賀こども園

主任保育士 望月 睦子 氏

主幹保育教諭 原田くみ子 氏

藤枝市 藤枝保育園

保育士 松下千名美 氏

特別感謝

三島市 白道こども園

園長 土山 雅之 氏

静岡市 城北保育園

園長 松田 剛 氏

焼津市 たかくさ保育園

園長 村松 幹子 氏

◆日本保育協会

*永年勤続表彰

(施設長)

浜松市 小豆餅ゆすらうめこども園

園長 宇野 富子 氏

上池さくらこども園

園長 増谷 昌子 氏

御挨拶



静岡県健康福祉部こども若者政策部長

赤堀 健之

早春の候、益々御清祥のこととお喜び申し上げます。会員の皆様におかれましては、日頃から本県のこども・子育て支援施策の推進に格別の御協力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

県では、令和七年度から県庁内のこども若者施策の指令塔として「こども若者政策部長」を新設するとともに、「こども未来局」を「こども若者局」に再編し、「しずおかこども幸せプラン（令和七年三月）」に基づき、こども第一主義の姿勢でこども・若者、子育て支援に取り組んでいくところであります。

国では昨年からの、待機児童対策を中心とした保育の「量」の拡大から、質の高い保育の確保・充実へと政策の軸を転換する中、一歳児保育において、六対一の配置基準を上回る五対一の保育士を配置し、かつICTの導入や研修受講等の要件を満たす施設に対し、新

たな配置加算を措置することで、職員配置の改善を進めております。

また、ライフスタイルや就業環境の多様化により、保育に対する需要が高い中、令和八年度から「こども誰でも通園制度」が本格実施となり、新たな保育需要の発生も想定されます。

このような中、質の高い保育を提供するためには、保育従事者の十分な確保と、保育従事者がゆとりをもって働くことが出来る体制整備が重要となります。

県では、令和八年度から、国の一歳児配置加算措置を活用し、これまで六対一以上としてきた県単独助成の支援対象を段階的に見直し、五対一以上の配置を満たす施設に重点化することといたしました。

併せて、貴会の御協力のもと実施している保育士等キャリアアップ研修は、令和八年度も十分な受講機会を確保し、質の高い保育の場を築くために、皆様と連携して取り組んでまいりたいと思っております。

安全で質の高い保育の提供体制を整備することで、未来を担う子供たちの健やかな成長を支えるため、今後もこども・子育て支援施策に全力で取り組んでまいりますので、引き続き皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人静岡県保育連合会の益々の御発展及び関係の皆様のご健勝と御活躍を心から祈念申し上げます、御挨拶といたします。

（職員）

熱海市 多賀こども園

保育教諭 原田くみ子 氏

富士宮市 東こども園

保育教諭 岡松 梨紗 氏

島田市 島田聖母保育園

保育士 岩堀真紀子 氏

保育士 三浦 純 氏

牧之原市 相良保育園

保育士 竹島希代美 氏

浜松市 天竜こども園

保育士 鈴木 絢香 氏

まるづかこども園

保育教諭 守屋 友美 氏

◆全国私立保育連盟

*保育功労賞

焼津市 ゆりかご保育所

前所長 奥川恵美子 氏

◆静岡県健康福祉大会

*知事功労表彰

静岡県保育連合会

会長 岡田 泰稔 氏



令和七年度 保育士養成施設との意見交換会

令和七年七月十七日に静岡労働会館において、令和七年度保育士養成校と静岡県保育連合会の意見交換会が開催されました。県内及び周辺県の保育士養成校十六校と静岡県社会福祉人材センター・静岡おつか保育士・保育所支援センター、そして当会の正副会長及び理事・保育者養成委員会委員が参加して活発な意見交換会が行われました。



岡田泰稔会長、野中徹県保育士会長のあいさつの後、しずおか保育士・保育所支援センターより、活動内容の説明がありました。また、参加の養成校に事前に協力いただいたアンケート結果について、保育者養成委員会委員から説明をしました。

※アンケート結果一部抜粋

◎県内養成校の卒業生数は減少傾向にある。令和七年四月入学生数は六八一名、令和六年卒業生一二〇五名、令和七年卒業生八九八名である。

◎県内の保育所・認定こども園・就職者数の推移

	東部	中部	西部
令和四年	124	145	203
令和五年	108	173	192
令和六年	61	120	85

(単位:人)

養成校間での意見交換を行った後に、「二つのグループに分かれ「実習について」「就職について」を各メインテーマとして意見交換が行われました。

《グループⅠ・実習について》

(県保連参加者の質問)

★実習について

・実習生の多様化というところで、特別な配慮や支援が必要な学生に対し、学校と連絡を取り合い連携して対応していきたいが、そのような学生の実習園としての評価が困難。就職後のサポートがある養成校もあると聞くが養成校の考えを教えてください。

(養成校の発言)

・不可とするときの基準として考えてほしいのは、言われたことを改善できない、遅刻を繰り返すなど。

・不可もいたしかたない、特別な配慮が必要な学生を入学時には止めることはできない。ただ、就職後にこどもへの安全配慮ができるか、など不安もある。

・要支援の学生は評価がつけられない園側のこともわかる。養成校と園の連携が重要。やはりこどもと関わる仕事のため現状を学生に伝え、保育士としての意思を確認するなど。

・どのように不可にしていくか？実習中に園から連絡をもらえれば、すぐに園に行き対応する。時間を割いて学校側も対処していく。総合評価は学校で行うので、すべてが園ではない。

★実習へのICT

(養成校の発言)

・学生は最初は手書きで手順などを覚え、慣れたらPCも可としているが、苦手な学生もたしかに存在する。また、書くことが苦手な学生も増えている実感がある。今後ICTの導入を検討していく。園長クラスはPCの使用を進めるが、担当者は手書きの方が早いという意見を聞いたこともある。今

後、システムとその書式の統一を検討する。巡回指導時、現場ではどちらでもいいと聞く。クラウドでの確認は難しいと考えている。基本的に学生はプリントアウトして学校で内容の確認作業を行う。日誌やシステム、アプリなど様々で学生にとつて就職後の対応が難しいかもしれない。学校と園でシステムである可能性はかなり低い。最近では日誌のブームとしてドキュメントシステムの活用があるが確認が難しい(大変)。結局、実習園のシステムで作業をして、学生がプリントアウトしたものを確認する。

(県保連参加者の発言)

・園側が、学校のシステムに合わせていく必要もあるのでは。学校にはそれぞれの様式がある。

★倫理・マナー

(県保連参加者の発言)

・アンケートを見て気が引き締まる。実習マニュアルの作成時にもこの部分には多めに触れるようにしている。学生を金の卵と考える学生のモチベーションを下げないような対応をしていく。園側の言葉遣い、居ずまい、社会のマナーや仕事に対する姿勢も教えるようにしている。

・支援が必要な学生については、事前に連絡(情報)が欲しい。本人に言わせるのか？何らかの方法で教えてくれれば園側は対応していくつもりである。

(養成校からの発言)

・支援を必要とする学生への対応として、さまざまなか、どう寄り添っていくかが課題。最近の学生の共通点として人権意識の高さがあげられる。実習先に伝えてほしいこと、伝えてほしくないこと、自分で伝えること、



耐えられないこと、などを聞き取りする。教育の合理的配慮から学生が選ぶ選択制を意識している。

・実習に関して学生の保護者への対応も必要となってきた。過去に四者面談もあった。現場の状況を学生がどう見ているのか、保育の実践や休憩の有無なども。

★実習は園も学生から評価されている

(養成校からの発言)

・園への情報提供について、本人の意思確認はしている。学生の意思を尊重している。できること、やらなくてはいけないこと等。その他、土曜保育について学生同士の実習後の話題にあがるがよくある。やらされた、断りにくかった、圧を感じた。園から土曜保育のことを言われると断れないとのこと。

(県保連参加者の発言)

・土曜保育は養成校で統一してもらうことはできないのか？

(養成校からの発言)

・土曜の取り扱いについて悩まないときはない。学生の立場は弱いので意見の表明できる機会を設けるなどの配慮が必要。

★巡回訪問 三者ディスカッションなど

(養成校からの発言)

・基本的に二者(学生と学校)で学生から話を聞き、その後園と学校で行ってもらう。訪問時、面談場所の設定を考えてもらいたいことがある(職員室の中などは話をしにくい)ため、再度、学生とのミーティングの場を設けることがある。

・実習生は夢を持って実習先に行くが、陰口や裏情報などを学生が耳にしないよう配慮をしてほしい。がっかりして実習先から帰ってくる学生もいるため、裏を見たくないだろうし、見せないでほしい。三者面談のときなどは褒められると喜んでいる。

・巡回について、園と学校、実習生と学校、園と学校、と複数回行うことも多い。

就職希望の園は実習に行き、声をかけてもらうことはうれしい話だが、複数人で実習先に行っている場合、片方だけ声をかけてもらうなどがあると、声をかけてもらえなかった学生が落ち込むなどあるため、実習は実習、勧誘は勧誘と分けてほしい。

《グループⅡ・就職について》

(養成校の質問)

★離職防止策などはどうしていますか？

(県保連参加者の発言)

・教育担当をつける。指導担当(リーダー級の職員をつける)。
・主幹と交換ノートをつけている(クラスでは言えないことなど)。
・一年目に組む職員の人選をかなり吟味する。
・一・二年目の職員には園内研修をする。
・土曜日の代休実施(週休二日)お互い様精神。
・勤務初日は午前中園長と面談、午後は副園長と面談。
・一週間程度は見学実習をし、三ヶ月教育担当(クラス・部門リーダー)がついてくれる。
・現場から離れてお茶会を開く。

(県保連参加者の質問)

★学生は小規模を望む方が多いですか？(定員が多い園長より)

(養成校の発言)

・教員からは薦めない。基本的にはある程度の規模の園にいき五年位経験して、それでもいきたいのであれば考えるのはいいかも、と伝えているが少数の希望者はいます。大小関わらず、雰囲気など自分にあった園を選ぶように伝えている。
・コロナ禍から少人数を好む傾向が出てきている。
・同法人でも園ごとに色が違うので極力法人採用より、園ごとの採用になるようにしてほしい

(県保連参加者の質問)

★エージェントの問題

(養成校からの発言)

・当たり前だが関わらないように伝えている。
・保証金等かかるのでそれを看護業界みたいに奨学金補助に充てるとか、何かやり方や組み方を統一してできると良い。
・焼津市は奨学金の三分の一を市が三分の二を園が補助している。しかし、年数の縛りがあるのでその後のフォローも検討しなければならぬ。

《まとめ》

保育者養成委員会

委員長 野中こども園 中村章啓

全国各地で短期大学・専門学校を中心に、保育士養成施設が学生募集を停止する動きが加速しています。四年制大学においても、保育士養成課程の定員を見直したり、学部・学科を再編する動きがあります。その背景には少子化の進行に加え、職業選択の対象として、保育士の人気に陰りが見えてきていることがあります。県内においても、定員充足率の低下が顕著になってきており、近い将来、深刻な保育士不足が生じる恐れがあります。

保育者養成委員会は、次の二点を中心に、保育士・保育所がこれまで以上に魅力的な職種・職場として認知されることを目指して活動していきます。

◆保育実習の質の向上を通じた養成課程への協力と採用時ミスマッチの低減

◆養成施設と保育所等の対話機会の創出による、より密接な関係構築

当面は、七月に実施した養成校との意見交換会や、県保育士会と連動したリーダーセミナーで収集した用法を基に今後の取り組みを検討していきたい。



令和七年度 *民間園長研修会*

日時 令和七年十月二十三日～二十四日
会場 アクトシティ浜松

コングレスセンター 三一会議室

今年度の民間園長研修会は、静岡県の西部に位置する浜松市で行われ、会場はアクトシティ浜松コングレスセンター三一会議室にて実施しました。また、今回は有限会社ゼンポ保険担当の海老塚氏より「弁護士とつながるはいくりーガルサービス」並びに各種保険制度のご案内もありました。



【開講式 県保連 岡田泰稔会長挨拶】

岡田会長からの挨拶では、私達の事業に対し今の行政への高い関心と期待が持てる事を

示唆しつつ、新たに導入される制度への理解と、その制度をどの様に運用していくべきかなど私達の変わりゆく環境について行政との話し合いなどを行い、今後の保育政策の方向性などを踏まえ所見を述べられました。

【講義①】「保育行政の動向について」

静岡県健康福祉部こども未来課長

松本 文 氏

静岡県における、取り組みや支援についての説明をして頂きました。静岡県幼児教育センターより、静岡県幼児教育推進マスコットキャラクター「わっぴびょん」の紹介があり、こども



若者局の新たな創設、しずおかこども幸せプラン、本県の少子化の現状、「保育政策の新たな方向性」についてなどの紹介や説明を話して頂きました。また、子育て世代に対し、若い世代向け結婚・子育て等ライフデザイン応援事業、子どもや子育て世代との交流・体

験などの既の実施している事業の報告もあり、保育士配置基準の改善についても表をもとに過去から現在までの流れの説明がありました。そして、乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）に対しての説明があり、既の実施している延長保育等事業の導入時と事業内容は違うが、実施を開始すれば同じような流れになるのではないかと述べられました。

【講義②】「安心・安全な場のつくり方〜園長に必要なリーダーシップとは〜」

ことのはスクエア 代表

橋本 恵子 氏

次の講義は静岡第一テレビにてアナウンサーとして活躍し、アナウンス室長やグループ会社で放送・業務部長として活躍し、二〇一九年に独立し、様々な資格を有し各団体の理事やアドバイザーなどを務められている、橋本氏より講義を頂きました。組織が上手くいく

中の心理的安全性の重要性を説明し、必要な六つの要素「関係性」「自己効力感」「自律性」「目的と意味」「多様性」をいかに作れるか、また、作り方のアドバイスをして頂きました。



また、現在における指導とハラスメントの違いやプロセスにフォーカスする七つのコツ、「承認」することの効果や注意点、やる気（自律性）とコントロールの関係、「ティーチング」と「コーチング」の違いやバランスなどを踏まえた様々なリーダーシップスタイルがある」と講義頂きました。

【講義③】「面白がる園が未来をつくる」制度対応こども文化創造へ」

認定こども園さくら 園長



堀 昌浩 氏

この講義では、認定こども園さくらの園長先生でもあり、日本保育協会本部推薦評議員、一般社団法人 Learning Journey の代表などを務められている堀先生より講義を頂きました。最初に園紹介があり、そして、保育園やこども園の在り方について過去、現在、未来と話しお話しされ、これまで（過去）そろえる教育・保育に適した施設・内容、いま（現在）伸ばす教育・保育にジャンプしようとする施設・内容、これから（未来）主体性を越えたその先の施設・内容を基に講義を頂

きました。また、こども誰でも通園制度の概要から一時預かり事業との違う点などの解釈や導入に至っての考えられるメリットデメリット、「誰でも通園」事業がはたす子育て支



援策などの優位性や価値のお話しを頂きました。さらに、実施園として実際にあったことなどの事例を踏まえ説明して頂きました。後半の部分では、県内の東部中部西

部から各一園ずつ実施者を交えたパネルディスカッションが行われ、富士市立第三保育園園長の久保倉先生、こぼと保育園園長の大石先生、まつばこども園園長の山田先生が登壇し実施についてディスカッションが行われました。その中でも実施に関しては、後ろ向きなところも少なからずありながらも、「全てのこどもの育ちを応援し、全ての子育て家庭に対して多様な働き方をライフスタイルにかかわらない形での支援をする制度」という目的であり、また一時預かり事業を長期に渡り運営してきた実績を踏まえ行つたと、大石先生が

おっしゃられました。利用状況としては、実利用者としては、三名で延べ二十六名が利用し、一人の子



が二十四回利用し、集団の中で成長を期待しての利用で、他の子は、保護者の事情によるものだったと、山田先生が報告してくださりました。実施方法も「一般型（在園児

合同又は専用室独立型）」と余裕活用型とあり制度の深い知識が必要となり、また、対象者（保護者）等にも一時預かりとの違いを伝えていく必要がある、行政を経由してくるものなのでこちらから積極的に説明する必要があるが、対象者から質問等がある場合は答える必要があるため知識は必要との事でした。さらに、この制度はまだ試行段階にあり、自治体によって実施内容が異なる可能性があるよう、利用時間の制限（月十時間など）や対応する施設・園の調整が必要であり、また、既存の「一時預かり保育」制度との整理・併用が課題の一つとして議論されており、保育士の人員確保や保育施設のキャパシティ確保も課題になると講義頂きました。

令和七年度 育児相談研修会

期 日 令和七年八月一日（金）
会 場 アクトシティ浜松

コングレンスセンター 三一会議室

テーマ

『保育者のコミュニケーションを考える

～相談に活かせる聴くこと、

伝えることを中心に～』

講 師 東海大学文化社会学部

教授 有沢孝治 氏

浜松市にあるアクトシティ浜松にて育児相談研修会が行われました。県内から一二十名もの申込みがあり、当研修への関心の高さが窺えました。



午前はコミュニケーションの基本を講義していただき、午後は聴くことを中心とした体験的な学びを行いました。

保育の現場では様々な方とコミュニケーションを取るため、場面に応じたコミュニケーションの取り方や対応の仕方、ポイントの講義をしていただきました。『聴く』の内容では相手の話を聴くときに気をつけたいことや、話し手の真意をキャッチするポイントなど実践で使える内容を学ぶことができました。『話す』の内容では質問の仕方によって、相手の方向性を見出したり、ポジティブなイ



メージを持たせることができたりと普段から何気に行っていることでも、具体的に内容を理解することで重要性を改めて学びました。

また保育士等の対人援助職に就く方は相手を思いやる気持ちがとても強い反面、自分へのまなざしが弱い傾向にあるそうです。自分を大切にすることが保育の質を高めることにつながり、コミュニケーションを円滑にしていくために必要だと学ばせていただきました。

グループワークでは、非言語のコミュニケーションや傾聴の仕方を実践を通じて行いました。技法や注意点を意識しながら行うことで、実際の現場をイメージしながら楽しく学ぶことができました。保育現場では、コミュニケーションは大切なスキルなので、明日からの保育につながる有意義な研修となりました。



令和七年度 施設長研修会

日 時 令和七年十二月十六日（金）

今年度の民間園長研修会は、こどももまんなか社会の実現に向け、施設長としての役割を再認識し資質向上を図ることを目的として開催されました。

【講義①】『持続可能な保育の質の向上と組織マネジメント～心理的安全性を高め学び続ける組織の要因～』

洗足こども短期大学教授 井上眞理子 氏



昨年度に引き続き井上氏にご登壇頂き、前回の内容を発展させたマネジメントのお話と心理的安全性について講義頂きました。

持続可能な保育の質の向上と組織マネジメントとは、子ども周りにいる大人の視点と見て、大人が学ぶ・成長するその立場毎の経験が財産になり価値観が豊かになり保育観の醸成が行われる。それらを「学びのフィルター」と呼ぶが、人間関係の衝突などは、各々のフィルターの相違で起こる。組織としては、同じようなフィルターの人同士を集めた組織は「類似型」と言い、衝突は起きにくいが強みも弱みも似通っているため組織としては弱く、リーダーや管理者の負担が大きい組織と

なる。一方フィルターの多様性を前提とした「調整型」の組織は衝突を緩和・研ぎ合わせ多様性を調和・発揮し成長し易い組織となる。類似型は組織としては初期の段階であり、調整型はより成熟した組織ではあるが衝突緩和のためのマネジメントが必要になる。より持続可能かつ成長し続ける調整型の組織モデルとして、職員が本気・本音でぶつかり合い、主語が自分で「私はこう思う」を言い合いそれを多様性として認めあえる組織が、円滑に省察を可能にし保育者の専門性の成長に繋がる。保育者の気づきを躊躇わずに発信できる風土の度合いを「心理的安全性」と言い、その度合いが高い組織の特徴である七つの概念を説明して頂きました。

【講義②】『いま、何故子ども真ん中なのか』

保育SOWラボ 代表 井桁 容子 氏



井桁氏曰く、こどもまんなか保育の視点から、よりこども・保護者・保育者のウェルビーイングを目指すためには、アンラーンという過去の成功を手放し先入観を捨て、今までの保育観・乳児観を更新していくこと、その上で本来の意味のアタッチメントである、子どもが心の底から安心感・安全感を得られる環境を保障することにあると仰っています。

今までの乳児観では、無能で・受動的で・無個性であるという考え方でしたが、一九七〇年頃から、寧ろ子どもは有能であり、能動的

であり、個性的であることが分かって来ました。その有能な子どもたちが安全感・安心感を得られるには、やりたいことができる、して欲しくない事は止めてと言える、して欲しいと言える。と子ども自身が感じることにあります。それらを保育者として満たすために本当に信頼をしてもらうために、重要なポイントとして、子どもの行動の理由を的確に洞察し満たす力を育てること、知るよりも感じること・神秘さや不思議さに目を見張る感性であるセンス・オブ・ワンダーを取り戻すことで子ども理解を深めること、子どもの前で大きな大人であること、肯定的な表現が多い大人であること、大変な時にこそどうしたらできるかを考え実践する大人であること、等の要素を教えてくださいました。

【講義③】『保育情勢報告』

静岡県保育連合会 岡田 泰稔 会長



現在の保育における情勢報告をお話頂きました。岡田会長によると、一般社団法人となつた静岡県保育連合会に所属する意義・メリットとして、連合会主催の研修受講や保育情勢のいち早い共有、そして組織の会員数に裏付けられた行政に意見し動かす力などが挙げられ、保育情勢をいち早く受取る方法として全保協のメール配信サービスを挙げており、鮮度は劣るが要点を纏めて確認し易い全保協ニュースレターなどもお勧めして頂きました。

令和七年度海外交流研修 タイ・バンコク

島田市 五和保育園 山口学世

十一月八日の深夜、羽田空港に集合した私達視察団は、翌日早朝、微睡みの中バンコクに到着した。

タイでは十月二十四日にシリキット王太后が崩御されたとのこと。市内至る所に黒と白のリボンに包まれた王太后の大きな写真や半旗が掲揚され、国全体で喪に服している状況で、「王朝」を実感する光景だった。

今回の視察は二施設。

一つ目はクロイトンスラムのドゥアン・プラティープ財団の幼稚園。一見すると普通の幼稚園で、皆同じ制服を着てモンテッソーリの教具で学ぶ子ども達の姿があった。しかし、この地域の社会問題（貧困、麻薬、売春等）を個々の子ども達が背負っているとのこと。この地域の子どもの為には教育が重要と考え、自園だけでなく他園からも英語の授業に参加する姿を見せてもらった。

見学後の説明の場には、第四代理事長で「スラムの天使」と呼ばれたプラティープさんが来てくださり、直接お話を聞ける光栄にも預かった。

「制服は皆で引き継いで着られるので、かえって経済的なのです」「モンテッソーリは日本で出会いました。スラムの多様な子ども

達への対応は個別であり、この考え方に親和性を感じたのです」「英語教育をしているのは、自信をもって生き、自分の殻を破ってほしいからです」「家庭や地域にもアプローチし、麻薬やエイズ撲滅運動もしています」「麻薬に溺れた子ども達を救う『生き直しの学校』も設立しました」等、丁寧に応えて下さった。

「学びこそが人を養い成長させる」という財団の「人づくり」に感銘を受けた。

二つ目の施設は、バンコクから少し離れたノンタブリ県の市立シリカン幼稚園。到着すると、喪服のお役人の撮影やタイのフルーツジュースの歓迎を受ける中、市長が現れるというスタートに、一つ目の視察先との違いに戸惑いを感じた。

六歳児女兒による民族舞踊の披露の後、市長から説明を受けた。県内でも人気の園で、申し込み日には午前三時半から並ぶほどだという。近くに入園の為のプレスクールもあり、園児数は二百人程。今後は受け入れ体制を拡充することだった。大きなプールやシアタールームも整備され、市長は民間園以上の水準だと誇らしげに話してくれた。

その後、三時から残った子ども達の授業を見学した。三歳児



の美術では線の造形遊びに参加させてもらい、シアタールームでは中国語のYouTubeに合わせ、私達も一緒に踊り楽しませてもらった。視察当日の夜、幼稚園のホームページに私達の訪問の様子が、すでに動画で掲載されているのを見つけ、驚いた。

「貧しい人々と豊かな人々との間に、大きなギャップのあるタイ社会」という言葉があるが、今回の視察では、その二つを垣間見たと感じた。



海外交流研修 タイ・バンコク



令和七年度 日本保育協会 支部合同研修会

期 日 令和七年八月二十九日
会 場 ホテル・グランヒルズ静岡

本研修会は、日本保育協会(以下、日保協)の支部有志が年に一回集合し、講師を招いて研修会を開き、また会員同士で情報交換の場を持ち、ともに学びと連帯を深める機会となっております。

今年度は、私たちの地元静岡が開催地となり、全国十三都府県市(青森、福島、新潟、茨城、東京、神奈川県、横浜、京都、大阪、広島、徳島、香川、静岡)から、百三十余名の保育者が参集しました。



開会式の後、十三時三十分より、研修会1「保育をめぐる動向と課題」を、ごども家庭庁成育局保育政策課認可外保育施設担当室長の大部沙絵子氏よりお話しいただきました。

休憩を挟み、十四時四十五分より、研

修2「ごども・子育て・保育の今後をみんなで考える」と題して、日保協理事長の吉田学氏より、保育情勢や今後の方向性についてご講演いただきました。

あれほど世間を賑わせた「待機児童」も急速に過去のものとなりつつあり、令和七年度からは、政策の上でも、これまでの「保育の量の拡大」は転換に向かいました。

今後、私たち保育事業者に求められるものは、細目は多岐に渡ると思われますが、大きな柱となるのは「質の高い保育」であり、また、「保育を必要とすること」に限定されない「全てのこどもと子育て家庭」への支援であると示されています。

吉田氏・大部氏ともに、社会の現状、政策動向を踏まえ、私たちが何をしていくべきか、そのヒントを提言していただきました。

暫時休憩後、研修3「保育会の展望」はパネルディスカッション形式で行われました。

コーディネーターは、浜松市なごみこども園園長の志賀口大輔氏。志賀口氏は、日保協青年部長など、多くの教育・保育関係機関で重要な役を務め、近年の目玉の新制度である「こども誰でも通園制度」の創設に当たっては、有識者検討会にも名を連ねた県内きつて



の事情通です。

パネリストには、いずれも日保協理事である、青森県こども園ひがしどおり園長の坂崎隆浩氏、広島県富士こども園園長の高橋英治氏、京都府

大山崎さくらの里保育園園長の山内五百子氏のご三方にご登壇いただきました。

みなさま、保育業界を代表する方々であり、現状把握、将来のビジョンに基づく実行力、そしてそれを支える熱量は大いに見習いたいところですよ。

保育業界は、相も変わらず、制度に翻弄され、移ろいやすい世評に肝を冷やされと、恨み節のひとつくさりでもときたくなりますが、そこは、東照神君のお膝元の私たち。重荷を負うて遠き道を行くがごとしのご遺誠は世の常と心得て、今回の研修でいただいた勇氣と知見、大勢の同業の仲間たち、そして何より燦爛と降り注ぐ子どもたちの輝きに支えられ、まっすぐ顔を上げて、しっかりと歩んでいきたいと思つた次第です。



青年部会活動報告記

保育連合会青年部の活動です。青年部ってどんなところ？どんな活動をしているのか、ご紹介いたします。現青年部会員の皆様も、まだ会員でない皆様も是非ご覧ください。ご興味のある方は保育連合会HPからも会員登録ができます。是非！

西部支部研修会（青年部西部支部）

令和七年八月二十二日（金）に、こども園・保育園に勤務する男性職員を対象とした交流研修会を開催しました。講師には早稲田大学スポーツ科学学術院教授の広瀬統一氏をお迎えし、「あそびの中に宝物がある！」と今こそ育てたい目に見えない力をテーマにご講演いただきました。研修では、自己制御ややり抜く力、協調性、感情調整など非認知能力（社会情動的スキル）の重要性について、遊びとの関係を具体的に学びました。後半はグループワークを行い、環境・課題・関わりが工夫が子どもの主体性や自己効力感につながることを理解しました。立場や経験の異なる参加者同士で活発な議論が交わされ、時間を忘れるほど充実した話し合いとなりました。参加者からは、日々の保育を見直し、自園での実践に生かしたいとの声が多く聞かれました。

令和七年度青年部視察研修会

九月三日、四日、五日、日保協青年部主催の第四十六回全国青年保育者会議が杜の都仙台市にて行われました。県内からも実に多くの参加者があつたと聞いています。今回の全国青年保育者会議では大会テーマを「杜の都で杜（盛り）あがれ！七魂のKIDS, N A（絆）！」と題して、北海道・東北七県の保育に込める熱い魂をこどもの幸福のために絆を強め、紡いでいく大会となりました。各分科会や記念講演、国の情勢にいたるまで充実した内容となりました。特に印象的だったのは、大会三日目の地元である楽天イーグルスの元選手たちによる特別記念講演でした。トークの中では球団設立秘話から、忘れてはいけない東日本大震災の事、そして日本一への軌跡など、こどもとこれからの未来



についてのお話を拝聴させていただきました。人口減少に伴い東北地方に限らずこどもの数が減少していくなかで、野球人口もどのようにして増やしていくのかそこには少子高齢化をみこした戦略、人口減少だからこそできることを考える我々保育業界にとっても共感する話だったと

おもいました。私たちに出来ることは何があるのかを今一度考えさせられました、先人たちの思いをたいせつにしながら、保育を受け継いでいく大切さを知る研修でした。

令和七年度 関東ブロック保育事業連絡協議会

九月一日、長野県軽井沢町にて令和七年度関東ブロック保育事業連絡協議会が開催されました。毎年関東ブロック保育協議会主催による関東ブロックの各都県政令指定都市からの提案協議題をもとに職域別会議を行っていますが、今回はこの中の「リーダー育成部会」に三名の先生方にご参加していただきました。会議では保育人材確保、保育の質について、また、誰でも通園制度等、明日の保育に関わる内容で実



に充実した会議内容だったようです。また、来年は静岡県内でこの「関東ブロック保育事業連絡協議会」が行われるという事で、こちらのご紹介もしてきました。来年はいよいよ静岡、県外の先生方と一緒に明日の保育を語り合い情報共有ができる貴重な場となることでしょう。実に楽しみですね。

富士宮市 富丘こども園

副園長 足立和俊先生

令和七年三月、新園舎改築工事が無事終了し、富士山本宮浅間大社宮司により厳粛に竣工式が執り行われました。

新園舎は二カ年計画で実施し、令和五年の一期工事では旧遊戯室の解体をし、その地へ保育室を中心とした北棟を建設しました。

令和六年五月、旧園舎から新北棟園舎へ引っ越して保育を行いながら二期工事へ移りました。築四十六年の鉄筋コンクリートの旧園舎は、私も過ごした思い出の園舎で心寂しい気持ちでしたが、解体を行い新中央棟と新南棟の建設を行いました。最終は一期工事の新北棟園舎と二期工事の中央棟南棟を連結し無事に改築工事を終了することができました。

富丘こども園の前身である富丘保育園は、私の祖父母により昭和二十八年に創立し、今年で創立七十二年となります。

戦後の戦争孤児を収容する少年教護院であった静岡県立三方原学園に七年間勤務した祖母は「子どもたちとの生活は、筆舌に尽くしがたいものであり、赤裸々な人間と人間とのぶつかり合い、心と心の戦いであった」とよく話してくれました。そして「そこに教育の力はあるのだろうか」と悩み苦しむ「私たちは教育者なのだ。教育を信じ、その可能性を信じなければ生きていく証がない。その教育の力は幼児時代が最も重要であることを身

をもって学んだ七年間だった」と。

昭和二十八年当時富士宮市制十周年となり、旧富丘村地区の陳情団は幼稚園設立運動を展開しており、地域の人々の熱意に動かされ、保育所の設立を決議しました。後援会を組織し多くの寄付と借入金で元々富丘保育園として同年六月に園舎を起工し、九月竣工しました。



創立当時の木造園舎と保母と子どもたち
(第1回卒園写真)

昭和三十年から四十年代にかけて子どもの増加に合わせて園舎や給食室の増改築を行い、昭和五十三年三月には社会福祉法人の認可を得て、鉄筋コンクリート造の新園舎（定員一八〇名）を新築しました。その後も利用

人数が増加し続けたため、あらたな新施設を設立するよう要請を受け、昭和五十九年四月学校法人としてリーチェル幼稚園を八〇〇㎡離れた地へ設立いたしました。

その後、富丘保育園は平成三十一年四月に認定こども園へ移行し、今日に至っております。



平成31年4月認定こども園認可
令和7年2月新園舎改築工事完了
(定員1号6名 2、3号118名)

新園舎改築を契機に、改めて今後の乳幼児教育やこども園のあり方について、職員一同見直しを進めてきました。総合保育のあり方、行事の見直し、子どもの人権、職員の働き方や職員間の共通理解など、さまざまな課題をあげ改革をすすめています。

教育の力を信じ、子どもたちの将来への生きる力を育みながら、初心を忘れず子どもたちと共に成長していくよう職員一同精進して参ります。

焼津市 市立石津保育園 園長 前澤和美先生

今回の訪問先は焼津市の公立保育園「石津保育園」さんです。園児数は男の子四二名、女の子四三名の計八五名。職員は二九名（調理師、看護師、業務員、早番・遅番専属保育士含む）です。保育園は住宅街にあります。近隣には小学校や地域交流センター、目の前には大きな公園（中央公園）があります。春から夏にかけては梅や桜、紫陽花の花を鑑賞したり、秋以降はどんぐり等の木の实拾いや、紅葉を楽しむこともでき、園庭だけでなく、公園も子どもたちを育ててくれる素晴らしい環境であると言えます。

特色としては、乳児クラスは担当制、幼児クラスは異年齢保育を行っています。一人一人を大切にし、寄り添う事でどの子どもも自分の思いを表現しやすい環境を心掛けているそうです。そして乳児での育ちを土台とし、幼児になってからは、クラスが家族のように年齢の違う子ども達が集まりお互いの気持ちを考えて、受け入れられるよう保育をすすめているそうです。



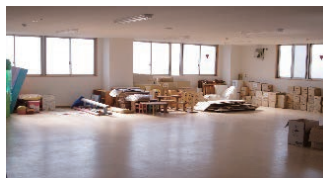
担当制保育も異年齢保育も、心を育てる保育が出来ているのではないかと思っていますという事でした。異年齢保育を始めた理由としては、核家族化が進む中で人との関わりが希薄になってきている世の中を子ども達の姿からも感じられる事が増えた為、当時の園長先生と副園長先生が「心を育てられる保育」をしていきたいという願いのもと行っていく事になっていったそうです。園庭を見渡してみると、子ども達と職員が年齢を問わず優しげな姿で遊んでいる姿は微笑ましく温かな気持ちになりました。



玄関横にはガラス張りの給食室があり、子ども達はもちろんの事、園を訪問される方にも献立や調理の様子を見る事ができ安心安全な食事の提供がなされています。



又、石津保育園さんの環境は、防災にも力を入れていました。中でも園舎三階には、広い備蓄室があり、非常用具の中には、園児の家庭から持参した防災バックや靴も用意され、地域の方にも避難待機所として解放する事になっているそうです。電源の確保にも困らないよう、停電時用のコンセントもあり万全な備えになっている事にも驚きました。



焼津市は津波到達時間が短く、施設は沿岸部にある為、屋上には津波から高所に避難できるような広い避難スペースがあり地域の実情と保育のニーズを合わせた、きめ細やかな防災対策をされていました。屋上に出てみると、そこにも広い待機場所があり津波だけでなく浸水被害からも子ども達の安全を確保できるようになっていました。屋上からは公園で子ども達が保育士と落ち葉拾いをしている姿が見え、私達に向かって「いっぱいいたよ」と手を振って満足気な顔を見せてくれました。今回、お忙しい中、取材に協力して頂き、子ども達への思いが様々な場面や場所から何う事ができました。石津保育園の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。



ありがとうございました。

周智郡森町 ときわ保育園 園長 萩野洋子先生

今回、取材に訪問させていただいた「ときわ保育園」さんは、百二十名定員の保育園です。近くには太田川という大きな川が流れており、その川に架かる橋を渡って、天方城跡に続く山道へ向かう途中の自然豊かな場所に、ときわ保育園さんがありました。

私たちが取材に訪れた日は、秋晴れの気持ちの良い日で、広大な園庭にある紅葉が赤く綺麗に色づき、歓迎してくれました。



平屋作りの大きな園舎は前園長先生が北欧の文化を取り入れ、漆喰風の壁や色彩豊かな手洗い場の水受け、子どもたちが園舎の中に居ながら風や光、時には雨の降る様子を眺められる中庭が設けられ

ていました。

園舎を新築されて二十年程が経過するようですが、こだわり抜いた設計により年数を感じさせない作りとなりました。また、旧園舎を改築し〇歳児室を本園舎と離れた場所にする一方で、〇歳児が落ち着いて生活できるようにしていました。

園庭には四季を感じさせてくれる木々の他、季節に合わせて栽培を行う畑、木造の大型の総合遊具、長いトンネルのある築山等、子どもたちが身体を十分に動かして遊べる環境が整っていました。

保育方針は「温かく家庭的な雰囲気の中で『よく遊び・よく食べ・よく寝る子』ということ、〇歳児～五歳児まで「繋がる保育」となるよう「基本的な生活習慣」の自立から、「達成感」や「自己肯定感」を育んでいます。

食育に力を入れていて、二歳の子どもたちはクラスで炊飯器を使ってお米を炊いており、給食の時間が近くなると、お米の炊けるいい匂いが子どもたちの食欲を刺激してくれるそうです。

あそびは「子どもたちが選択し遊びこめる」ように、年齢の発達に合わせて玩具を年々二～三回入れ替えるようにし、「お片付け」ではなく「元にもどそうね」と声をかけ、満足・達成感が得られるように工夫しています。



年中児から、「さわり織」に触れるようにしています。年中はポシェット等の小物からつくりはじめます。年長になると、さをり織機を使ってマフラーを編んだり、年によってはベストやパンツ等も作ったりするそうです。

元々は障がい者の施設で指先の運動として取り入れられていた、さをり織を、子どもたちにも楽しんでもらおうと、保育に取り入れるようにしたそうです。たくさんある糸を自分で選び、紡ぎ合わせながら世界で一つだけのさをり織を完成させていきます。織機は園内に三台あり、一年を通じて交代で編むようにしているとのことでした。

園外保育では、夏の暑すぎる時期を避けて、片道一時間はかかる天方城の跡地である「城ヶ平」まで、山を登っていくそうです。年齢に応じて、最初は緩やかに設定していきますが、一年をかけて登って行くうちに、三月には以上児全員が山頂まで登ることができるようになるそうです。

最後に、発表会を近日に控えていたお忙しい時期に、快く取材を引き受けてくださった、萩野先生を始め、職員の皆様には感謝を申し上げます。ありがとうございました。

保育園・こども園の 社会貢献活動

（子育て支援啓発活動事業
助成金交付事業）

三島市第一七回 三島市ほいくまつり

三島市民間保育園長会

令和七年九月六日（土）三島市楽寿園において、「第一七回三島市ほいくまつり」を開催しました。

このイベントは三島市民間保育園園長会主催・三島市共催で行い、市内の公私立の二十二ヶ園の保育園・認定こども園が協力して開催しています。目的としては、乳幼児期の親子が保育施設での遊び・教育に触れ、保



育施設に対する理解を深めてもらい、保育施設の姿を知ってもらうこと、また併せて親子の触れ合いの場、子育て支援の場

として実施しています。

当日は、厳しい暑さの中での開催となりましたが、テントの分散、エリア拡大、ミストエリアの設置をすると共に、各園でも独自に暑さ対策する等しながら来場したご家族が安全に楽しめるよう全園で協力・工夫をしながら実施しました。子育て家庭一七八六名の来場があり、保育者・関係者を含めると二〇〇〇名を超える大イベントとなりました。参加した園児・保護者は多くのお友だちや先生たちと交流しながらお祭りを楽しんでいる姿が見られました。開会式前のセレモニーでは、三島市に伝わる郷土民謡である農兵節を、農兵節普及会様の皆様の指導のもと、来場者と会場スタッフで円になりみんなで踊り盛り上がりしました。開会式は主催者代表杉村伸二郎会長の挨拶後、来賓の三島市長豊岡武士様・三島市議会議長堀江和雄様・衆議院議員細野豪志様よりご祝辞をいただきました



た。また、静岡県議会議員伊丹雅治様ほか、多くの三島市議会議員の皆様にも出席していただきました。その後、各園の保育者たちが趣向を凝らしたブースがオープン。各園のブースは、園長会で推進しているSDGsをコンセプトに、廃材などを使用し、工作やゲームなど普段の保育や家庭でも楽しめる内容となっております。ブースごとテーマとしているSDGsのロゴも掲示し、親子で環境等に興味を持ってもらえるよう取り組みました。

「こんなに盛大なお祭りなんですわね」「移住してきて初めて参加しましたが、とても楽しいイベントですね」と初めて参加するご家族から嬉しい感想をいただいたり「今年も楽しみにしていました」と定着したイベントとなっていることを実感する言葉もいただきました。少子化が進む中、数年前よりも四〇〇名以上参加者が増えており、継続して実施していくことの重要さと、このようなイベントが市内の多くの子育て家庭に望まれているのだと感じた一日となりました。



令和七年度 ほいくまつり

島田市民間保育協会

十一月十五日（土）島田中央公園芝生広場にて、晴天の下「ほいくまつり」を開催いたしました。島田市民間保育協会加盟の十五ヶ園が、それぞれの遊びを協力してコーナーを担当しました。



【赤ちゃんコーナー】では、絵本の読み聞かせ・わらべうた・手作りおもちゃ・クツシ

ヨンマットで遊ぶうで、ゆつたりと過ごし、【食育コーナー】では、紙芝居・野菜スタンプを押しながら本物の野菜に触れる機会を作りました。【あそびコーナー】では、新聞紙グロップでのキャッチボール、的当て、ケンケンパと幼児が親子で楽しめる場となりました。【お楽しみコーナー】では、お菓子すくいの後ゆつたりと座れるベンチを設けた事で休憩場所にもなりました。お楽しみコーナーの宣伝と共に、QRコードを大きく提示することで、民間保育協会



のホームページへの登録も促すことができました。今年はいきいきのいい羊達にもお願いして、途中二回程、親子で楽しめる様々な運動あそびを紹介していただきました。親子が本当に楽しそうに体を動かしていたと共に、私達保育者にとっても、遊びの内容・ひきつけ方等勉強になりました。

また、島田市子育てネットワークからもコーナーの出店があり、オリジナル缶バッジ作りには部長課長も総出で汗を流



し対応していました。最後は、昨年より「お口ぼかん」対策で取り組んできた「はつけよいアニマル体操」を全員で踊り笑顔で終わる事ができました。

開催場所が、駐車場問題で本年度より変更になり心配していたのですが、四〇〇人以上の親子が来場してくれ、大いに盛り上がった事はなによりでした。



「ほいくまつり」は、平成七年より雨天中止もありつつ毎年大切に行われ続けた当協会の重要な活動であります。「民間保育園との交流と、市民へのPR」を主な目的としてきましたが、気のいい羊達や島田市応援課との協力の中で行われた今年のほいくまつりの中で視野を広げる事の実感を得た所です。

大きな行事をやり遂げた後の参加職員の晴れ晴れとした笑顔は、来年につながる大きな力となる事と思えました。



アエル子どもサマーフェスティバル2025 パワフルジャンプきくがわ

菊川市幼児施設連絡会

令和七年七月二十六日土曜日 菊川文化会館アエルで「アエル子どもサマーフェスティバル2025」「パワフルジャンプきくがわ」が開催されました。菊川幼児施設連絡会（園長会）では、今回初めてブースを設けて参加しました。

このフェアは、単なる子育てフェアにとどまらず、各方面からさまざまな機関が参加し、子どもに関する多くのブースが設けられるなど、啓発活動が行われました。

幼児施設連絡会は、菊川市内の小規模保育所を含む十八園が加盟しており、各地区において地域園としての役割を確立しています。地域性が強く、小学校も近隣に位置していることから、地域の慣習が良き伝統として受け継がれています。

しかし近年、各地区において農地の宅地化が進み、地縁や血縁のない家族の移住が増加しています。その影響により、地区の園に関する情報についても、あらためて分かりやすい提供が求められるようになり、これまでにはなかった新たなニーズが生じています。そこで今回は、「入園相談ブース」を設け、これから移住を考えている家族に地区ごとの幼



児施設の様子や、今後の手続き方法を気兼ねなく聞いていただくことが出来ました。当日は、これから菊川市への引っ越しを検討している家族や、実家とは異なる場所での住居を考えている家族、さらに広域的な事情により市役所担当課での事務手続きが円滑に進まない家族などから、多くの疑問や質問が寄せられました。

入園相談では、各地区の様子や、戸建て住宅を購入した場合の自治会との関わり、また都市部では減少しつつある子ども会の現状について説明しました。

フェアでは、きみちゃんの読み聞かせや紙芝居が行われ、子どもをはじめ大人も熱心に聞き入っていました。さらに、市内の戸田書店が、内容に合わせた絵本のブースを設けていました。また、家族向けの防災ブースでは、中部電力による自転車発電や簡易浄水器の体験、さらに菊川消防本部による救命体験など

が行われました。一般的な子育てフェアではあまり見られない、家族で参加できる体験型イベントが多く、飲食ブースも充実しており、家族で半日を過ごすのにちょうどよい内容となっていました。

今後も幼児施設連絡会として、地域の園という役割にとどまらず、子育てに関するさまざまなニーズに応えられる園として、存在感を示していく必要性を感じています。

同時開催/菊川市 生活環境フェスタ

アエル子どもサマーフェスティバル2025

きくがわのまちから次世代へ発信！
一人ひとりの豊かな個性を 挑戦・繋がり・創造

みんなで防災！

パワフル・ジャンプきくがわ

入場無料
※参加費が必要なプログラムもあります

2025年 7月26日(土) 9:30~13:00
会場：菊川文化会館アエル 小ホール・大ホールホワイエ

家族で防災 inアエル 家族で防災

日常の中に防災を！～自分事として命を守る～

主催・お問い合わせ 子育てサポーターぽれぽれ 090-7175-7040 polepoledani@gmail.com

家族で マイタイムライン 「わたひな」を作ろう！	クン岡村 ぼうさいINURIE 消火器体験とクイズ 水害避難体験	たいくまん(大工村) うんちまん(ウケデコ) と防災ゲーム	幼保こ施設 入園相談コーナー	物々交換ママ/パパと コロボ！ まだまだ使えそうな ものをみんなシェア！
--------------------------------	---	-------------------------------------	-------------------	---

共催 菊川文化会館アエル 菊川市幼児施設連絡会 協賛 菊川市 菊川市教育委員会 協力 株式会社マママイン・ふくろくろく 菊川市委員会 菊川市危機管理推進機構 菊川市消防本部 菊川市消防団 菊川市女性生活防犯まちのり

～活動の報告と計画～

研修委員会

委員長 桜木こどもの森 岡田博次

今年度これまでに左記の研修会が終了して
います。主な講師等のご紹介です。

●所長研修会（六月二十日）

会場 グランシップ（静岡）

講師 川田学氏（北海道大学教授）

●育児相談研修会（八月一日）

会場 アクトシティ（浜松）

講師 有沢孝治氏（東海大学教授）

●民間園長研修会（十一月二十三・二十四日）

会場 アクトシティ（浜松）

主な講師 橋本恵子氏（ことのはスクエア）

堀昌浩氏（認定こども園さくら園長）

●施設長研修会（十二月十九日）

会場 グランシップ（静岡）

主な講師 井上眞理子氏（洗足こども短期
大学教授）

井桁容子氏（保育SOWラボ代
表）

今年度内の今後の計画は次の通りです。

○新規採用予定職員研修会（二月）

西部支部（三ヶ日青年の家／十二・十三日）

東・中部支部（エスプラットフジスパーク
／十六・十七日）

予算対策委員

委員長 中里保育園 青野貴芳

本年度の県への要望事項は、先号でお伝え
した通りです。

先号に記した通り、一歳児の配置改善加算
の開始に伴い県や市町の補助が減額・廃止さ
れないか懸念されます。

すなわち、県の補助金によって五対一の配
置基準が実現されていたので、そのための原
資が国から支給されるなら、県の補助金は不
要と判断される恐れがあります。

しかし、五対一といえど不十分な基準であ
ることに変わりなく、不十分な基準を補助す
るといふ補助金の意義・必要性は依然として
失われていません。

そのため、県保連は県に対して、例年の要望
以外に、県議会議員の方々を通じて、県の補
助事業である「乳幼児保育事業」の継続・増
額を緊急要望として提出しました。

その結果は、議会の決議を経てからでない
と確かなものとはなりません。県保連とし
てできることはしたつもりです。

保育所等に対する補助の減額は、国が掲げる
「こどもまんなか社会」の理念に逆行するも
のですし、なによりも、子どもの最善の利益
を損なうものです。

県の方針を覆すことは容易ではありません
が、道理は明白に私たちにありと考えますの
で、今後も粘り強く要望を重ねていきます。

認定こども園特別委員会

委員長 慈恩こども園 土山龍之

令和七年六月の保育連合会加盟園数は
六四一園、令和七年四月の県内の認定こども
園数は三九六園です。県内の認定こども園全
てが保育連合会に所属しているわけではあり
ませんが、認定こども園へ移行している園は
毎年増えています。

当委員会では、九月末に県保連全加盟園対
象に「認定こども園 移行調査」を行いまし
た。ご協力をいただき、ありがとうございました。
現在五五六園からの回答データを集計
し、委員会の中で調査分析している最中です。
次年度の総会までに皆さんからいただいたデ
ータを精査し、認定こども園固有の問題や課
題の抽出などを行い分析データの公表をした
いと考えています。今後は県保育連合会が所
属している上部団体との連携や認定こども園
他団体との協力体制、また他の委員会との連
携についても協議を重ねていく予定です。ま
た、認定こども園へ移行済みか、検討中の園
への支援、移行する予定のない園を含めた全
加盟園へ向け、情報を提供していく予定です。

キャリアアップ委員会

委員長 ルンビニあゆみ園 野中 徹

令和七年度の静岡県保育士等キャリアアッ
プ研修会も事業計画通りすべての研修日程を
無事終了することができました。

研修を続けていくと、まず四分野を達成するため、ベテラン、中堅、若手へ受講者対象者が変わっていくと予想されていましたが、今年度からは管理職や主任・主幹などの姿も見られました。対象者となったからではなく、質の向上のためにも、管理職や主任・主幹などより多くの方たちに研修を受けていただきたいと思えます。

残念ながら、今年度はeラーニングの申込者のみ定員を下回ってしまいました。それでも全ての参加型の研修は定員を上回る申し込みが続いています。一人でも多くの方に希望分野の受講ができるよう、申し込み後にキャンセルするなどの無理な研修計画を立てないようにお願いいたします。

質の高い保育・教育を提供するために、受講される皆様のキャリアアップが図れるような研修提供を、今後も協議検討を重ね実施できればと思えます。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

保育者養成委員会

委員長 野中こども園 中村章啓

全国各地で短期大学・専門学校を中心に、保育士養成施設が学生募集を停止する動きが加速しています。四年制大学においても、保育士養成課程の定員を見直したり、学部・学科を再編する動きがあります。その背景には少子化の進行に加え、職業選択の対象として、保育士の人気に陰りが見えていることがあり

ます。県内においても、定員充足率の低下が顕著になってきており、近い将来、深刻な保育士不足が生じる恐れがあります。

保育者養成委員会は、次の二点を中心に、保育士・保育所等がこれまで以上に魅力的な職種・職場として認知されることを目指して活動していきます。

◆保育実習の質の向上を通じた養成課程への協力と採用時スマッチの低減

◆養成施設と保育所等の対話機会の創出による、より密接な関係構築

当面は、七月に実施した養成校との意見交換会や、県保育士会と連動したリーダーセミナーで収集した情報を基に、今後の取り組みを検討していきます。

海外交流委員会

委員長 認定こども園 原町保育園
鶴谷由美子

今年度の海外研修は、十一月八日から十二日までの五日間「タイ・バンコク」にあるドゥアン・プラティープ財団が運営する幼児施設と公立施設のシリカン幼稚園を訪問させていただきました。

また、施設訪問とともにスラムの細い路地を歩いたり、歴史的寺院と市場が共存している街並みや水上で暮らす方々の生活などフィールドワークプログラムの中で日本とは違う文化や生活にも触れることができました。

事後報告会では今回の研修内容をドキュメ

ンテーションにしたところ、園の子どもたちが非常に興味深く見ていたり話を聴きたがったこと、改めて日本の子どもたちの環境が豊かであることを感じたこと、また海外研修に参加して違う国の保育や文化に触れたいなど、参加した皆さんが生き生きと報告する姿を見て実りある研修だったと感じました。

さて、来年度はオーストラリアのプリズベングールドコースト地区での保育施設訪問に決まりました。遊びを通じた個人の興味や自主性を大切にしており、野外遊び・少人数制での丁寧な保育が特徴です。三月から募集開始ですのでぜひ多くの皆様にご参加いただきますようお願いいたします。

少子化等問題検討委員会

委員長 認定こども園 原町保育園
鶴谷由美子

毎年静岡県の皆様に子育て支援への関心と理解を求める啓発活動を行った場合の経費（二事業五万円）を助成する「子育て啓発活動事業助成金制度」を実施しています。今現在東部と西部からの申し込みがあります。今後も助成金実施を継続していきますのでこの助成金を活用して地域の子育て活動の展開を更に推進していただきたいと思えます。

本年度も啓発品として新しいほんわかデザイアのクリアファイルと付箋セット、ピンバッチなどあります。啓発活動の財源となりますので協力金へのご支援よろしくお願いいたします。

中部支部

焼津ターントクルこども館での職員研修を終えて

焼津ターントクルこども館にて行われた保育士職員研修に参加しました。館内は木のぬくもりにあふれ、こども達が思い思いに遊び、学べる工夫が見られる素敵な空間でした。そのような環境の中で行われた研修は、私たちにとって、新たな気づきと学びに満ちた時間となりました。



研修では、始めに館内の図書コーナー、木を使った様々な遊び体験コーナー等を説明していただきました。続いて講師の先生による講話に加えグループワークによる製作等を通じて、日々の保育の中の課題や工夫を他園の職員同士で共有しました。普段は自園の中だけで考えてしまいがちのことも、他園の先生方の視点や実践例を聞くことで、「こんな方法もあるんだ」「こども達への伝え方をもう一度見直してみよう」と、考えを深めるきっかけになりました。

印象深かったのは、こども館のスタッフさ

んの丁寧な説明と温かな対応、行き届いた清潔感と、何より来館保護者ともども達の間で笑顔でした。中には高校生らしきグループも見られ、これから未来の保育士がうまれるのかなと、ふと思いました。



また、他園の先生方との交流は大きな刺激となりました。異なる園の環境や保育方針に触れながら、それぞれがこども達の為に真摯に向き合う姿に、同じ保育者として誇りと励ましを感じました。研修後には自然と笑顔で会話が弾み、新たなつながりも生まれました。

今回の研修を通じて得た学びと気づきを、今後の保育にしっかりと生かしていきたいと思えます。日々のこども達の姿を丁寧な受けとめ、職員一人一人が成長し合える園づくりを目指してこれからも学びを深めていきたいと思えました。

東部支部

支部長 中里保育園 青野貴芳

一、総会及び施設長研修会

参加者数二〇〇名

期日 令和七年五月二十一日(水)

会場 プラサヴェルデコンベンションホールB

二、危機管理研修会

参加者数一二五名

期日 令和七年七月十六日(水)

会場 プラサヴェルデ

三、中堅保育者研修会

参加者数四五名

期日 令和七年八月二十七日～二十八日

会場 箱根の里・プラサヴェルデ

講師 勝又ひで子氏(アップハート代表)

川村結里子氏(ベップトーク普及協会)

四、保育の日研修会

参加者数四〇〇名

期日 令和七年十月十一日(土)

会場 沼津市民文化センター

五、職員研修会(オンライン研修会)

参加者数四八名

期日 令和八年一月十三日・二月十三日

講師 藤原里美氏(チャイルドフッドラボ)

六、新規採用予定職員等研修会

参加者数一〇六名

期日 令和八年二月十六日～十七日

七、民間部会施設視察研修会(未定)

八、青年部会(未定)

九、行政部会(未定)

中部支部

支部長 有度十七夜山保育園 笠井友泰

一、総会及び施設長研修会

参加者数一三〇名

期日 令和七年四月二十三日(水)

会場 静岡県総合福祉会館

講師 家族保育デザイン研究所

代表理事 汐見稔幸氏

テーマ 「からだ・食べ物・健康～そんなことから保育を考えてみよう～」

二、職員研修会

参加者数七一名

期日 令和七年七月三日(木)

会場 焼津ターントクルこども館・橋本組

講師 こども館職員 小栗氏・北野氏

テーマ 「五感を磨き、高い感性の保育者を目指す」

三、中堅保育者研修会

参加者数一二三名

期日 令和七年九月九日(火)

会場 静岡県総合福祉会館

講師 アサーティブジャパン

認定講師 谷澤久美子氏

四、フオーアップ研修会

参加者数四八名

期日 令和七年十月二十九日(水)

会場 静岡県総合福祉会館

講師 コーピングネットワーク静岡

代表 土方良子氏

五、新規採用予定職員研修会

参加者数一〇六名

期日 令和八年二月十六日～十七日

会場 富士市エスプラットフジスパーク

西部支部

支部長 まつばこども園 山田佳敬

一、総会及び施設長研修会

参加者数一四一名

期日 令和七年五月十九日(月)

講師 今泉菌科院長 今泉三枝氏

テーマ 「お口育て」で楽しく美味しく健康に!

二、中堅職員研修会

参加者数六〇名

期日 令和七年七月二日(水)

講師 慶應義塾大学教授 今井むつみ氏

テーマ 「自ら学ぶことができる学び手になるために幼児期にするべきこと」

三、男性職員交流研修会

参加者数四八名

期日 令和七年八月二十二日(金)

講師 早稲田大学スポーツ科学学術院

教授 広瀬統一氏

テーマ 「遊びで育む非認知能力!〜今こそ育てたい目に見えない力〜」

四、初任職員研修会

参加者数七三名

期日 令和七年九月一九日(金)

講師 絵本作家 山口マオ氏

五、危機管理研修会

参加者数一〇六名

期日 令和七年十一月二十日(木)

講師 弁護士法人かなめ 畑山浩俊氏

テーマ 「不適切保育事案から学ぶ 緊急対応及び保護者対応の実践解説」

六、新規採用予定職員研修会

参加者数一〇六名

期日 令和八年二月十二～十三日

会場 三ヶ日青年の家

[全私保連推奨] 各種団体保険制度



ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間 (中途加入可能)



「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険 (学校契約団体傷害保険)」「職員団体傷害保険 (総合生活保険)」など、保育施設における最大リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間 (中途加入可能)



社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新 (中途加入可能)



「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一の場合の育児費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

しょうがくせいのほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新 (中途加入可能)



24時間のおケガ等からお守りすることに加え、学校からの貸出タブレットを含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱
代理店

有限会社ゼンポ

TEL: 03-3865-3881
FAX: 03-3865-2806



引受
保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

担当課支社: 公務二部 文教公務室 TEL: 03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約特約傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険 (レピュテーション費用特約条項付 費用・利益保険)・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険 (傷害保険) の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定 / 東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL 03-3865-3881
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館4階

無制限の動画や写真を通して、園と保護者の絆を深める連絡アプリ

全国私立保育連盟推奨 (総代理店)



「きっずノート」は長く使い続けていただけるよう

初期費用0円・登録者数無制限

すべての機能使い放題 /

月額 5,500円 (税込)

無料体験実施中!



お申し込みは
コチラ



ご相談・ご質問はお気軽に

きっずノートサポートセンター

TEL 03-3865-3886

印刷物からノベルティまで

おまかせください。



紙加工品のことなら大日三協へ

大日三協は、FSC 森林認証 (COC 認証) を取得し、森林認証紙の取り扱いをしています。



大日三協株式会社 静岡県静岡市葵区流通センター12番1号
TEL:054-265-5501 FAX:054-265-5502

保育士採用、

Support

私たちがサポートします！



求人を出しても応募がない

効果的な求人票の書き方がわからない

求職者と出会う機会が欲しい

ミスマッチで早期退職が続いている

すべて無料でご利用いただけます！

- ✓ 各種相談 (採用、定着、労務等)
- ✓ 事業所・求人登録
- ✓ 求職者の紹介・マッチング
- ✓ 就職フェアへの出展

その採用のお悩み、お任せください！



福祉のお仕事 検索方法

福祉のお仕事 トップページ ▶ 求人を出す を選択・クリック

<https://www.fukushi-work.jp/>

STEP1

「福祉のお仕事」から事業所登録

STEP2

求人票を作成

STEP3

しずおか保育士・保育所支援センターが、求職者に求人のご案内をします!!

「福祉のお仕事」ホームページ

福祉人材無料職業紹介所
厚生労働大臣許可



社会福祉
法人

静岡県社会福祉協議会

中西部

静岡県社会福祉人材センター
しずおか保育士・保育所支援センター
TEL: 054-271-2110

住所: 〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館 シズウェル 3階
開所: 月~金曜日 (8:30~17:00) ※祝日除く

東部

静岡県社会福祉人材センター東部支所
TEL: 055-952-2942

住所: 〒410-0801 沼津市大手町1-1-3 沼津産業ビル2階
開所: 月~金曜日 (8:30~12:00/13:00~17:00) ※祝日除く

ホームページ



instagram



さあ、ワクワク探しの旅に出かけよう！ www.tobutoptours.co.jp



“Warm Heart”
～ありがとうの連鎖を～



東武
トップ
ツアーズ

静岡支店

〒420-0859

静岡県静岡市葵区栄町3番1号

あいおいニッセイ同和損保静岡第一ビル10F

TEL.050-9001-9697 FAX.054-252-9509

OA機器・システム商品・オフィス家具

経費削減のお手伝い

見積・相談無料



株式会社 Net



Net 沼津

検索

TEL 055-939-6100

沼津市米山町 12-15

みずなレコ

こども園・保育園・幼稚園向け
保育支援ICT

保育士の負担を軽減し保護者とのコミュニケーションを円滑にすることで、より質の高い保育を提供できます！

らくらく更新Web

園の紹介、情報公開は
簡単便利なホームページで！

苦情解決、事業報告、行事予定、アルバム等が園のパソコンで簡単に更新できます！

チェックインシステム

簡単操作のメール配信システム
低価格で多機能

緊急連絡他、アンケート調査、質問回答集計、閲覧状況、受信状況も把握できます！

〒411-0912 駿東郡清水町卸団地63-2 <http://www.dataeast.co.jp>
TEL:055-976-1057 FAX:055-976-1057 E-mail:h-sanada@dataeast.co.jp



株式
会社

データサービスセンター

『キッズガード』 (園児総合保障共済制度 (こども総合保険))

AIG損害保険株式会社

日々大きく成長されるお子さまたちの行動には予測できないことも多く、何かとお心づかいのことと存じます。いつ、どこで何が起ころのか予想もつかない事故の、確かな“おまもり”として本制度をお届けいたしております。

静岡支店 〒420-0851 静岡市葵区黒金町20-1
AIG静岡ビル5階

TEL : 054-255-5141

浜松支店 〒430-7715 浜松市中区板屋町111-2
浜松アクタワー15階

TEL : 053-454-0321

S-260305(202701)

未来は、あそびの中に。



JAKUETS



編集後記

御殿場は毎年雪かきが必要な地域ですが、ここ数年、雪かきをしたことがありません。夏の猛暑といい温暖化が怖いです。

すみれこども園 鷹野一広
九六号も無事に発行できて良かったです。今年も馬の様に駆け抜ける一年になりそうです。

城北保育園 松田剛
今年もよろしくお願ひします。今年もよろしくお願ひします。駆け抜けていきます。

すみれ認定こども園 後藤恭佑
今年もよろしくお願ひします。残念。今年もよろしくお願ひします。残念。今年もよろしくお願ひします。残念。

ほのぼの保育園 坂井玄気
ウォーキングのしすぎで膝痛に！まずは、筋トレから始めます。こども達といっぱい遊ぶぞ！

第三ゆりかご保育所 原崎かおり
年末、階段で足を滑らせ大尻もち。痛みにも堪えながらの新年の準備に、健康のありがたみを改めて感じた年の瀬でした。

月坂保育園 奥川むつみ
五十代になった途端にあちこちガタが来た。大規模修繕となる前に自力で何とかせねば、と言いつつアイスとポテチを頼張る。

みくに保育園 加藤聖司
物忘れが激しくなってきましたが、メモを取って、みんなに迷惑かけないように気をつけたいと思います。まずは、健康第一

まつのき保育園 竹内映晴
最近気温が低い日は、身体が痛いのであるべく身体を動かすように気をつけます。

真愛三ツ谷こども園 松浦弘太郎
健康のために走るようになりました。走り切った後の一杯が最高です。走っているのになぜか体重が増えてきています。

きらきら保育園 八木大輔
初めての広報委員会でした。今まで含めて皆様の大変さが身に染みてわかりました。今回含めありがとうございます。

沼上こども園 森下健二

わんぱくひろば



「ほいく静岡」96号

発行日：令和8年3月15日発行

発行者：一般社団法人静岡県保育連合会

420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館

TEL：054-251-8873 FAX：054-253-4226

印刷所：大日三協(株)